

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより第1号

令和7年4月25日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-ed.jp/>

何を学ぶか、どのように学ぶか

北海道新篠津高等養護学校 立田 俊治

本年度、3年目となります、第12代校長 立田 俊治（たつた としはる）です。よろしくお願い申し上げます。4月9日には37名の新入生を迎え、第33回入学式を挙行了しました。2年生47名、3年生38名と合わせて122名の生徒で令和7年度をスタートしました。

さて、年度初めの御挨拶といたしまして、令和7年度学校経営方針「令和6～8年度 教育指導・学校経営重点」より説明を二ついたします。

一つ目は、「教育課程の改善と基底の整備」についてです。本校では、令和4年度入学生より学年進行で教育課程（生徒が学ぶ内容や方法の全体計画で、日常的に授業として実施されます。）を改訂してきました。令和5年度からは、同時並行で令和4年度版教育課程を評価・改善する作業を教育課程改善委員会を中心に取り組んでいます。現代社会は高度な情報化社会であるため、学校で学ぶ内容も多様かつ膨大になっています。しかしながら、従来から北海道の高等養護学校では、「社会自立」「職業自立」を教育の重点とすると共に、体験的な学習を指導方法として重視することは不易だと考えます。現在取り組んでいる教育課程改善作業では、本校の生徒の特性に応じた基本的な事項を全教職員で再確認をしながら、より一層の職業教育・キャリア教育の重点化を図り、充実・発展することをめざしています。そのため、令和8年度から現場実習の回数や実施内容を改善したり、すでに年度ごとに充実・発展している生産から校外での販売会並びに納品などへの取り組みに各学科で創意工夫を続けたりしているところです。

二つ目は、「地域での体験的な学習とICT教育の調和的な充実（ハイブリッド化）」を設定しました。本校の生徒は間接体験よりも直接体験による学びの方が「生きる力」、「働く力」の育成につながるという学習特性があります。一方では、ICTの活用は高度な情報社会である現代では、本校生徒の学習内容として取り扱うことの重要性は高まっていますが、いずれの学び方も、生徒が卒業後の社会で豊かに生きて働くためには大切な時代になっております。それらを実際の社会で活用することができる「生きる力」、「働く力」として身につけているのかを確認するためには、校外における地域での学習場面を設定して確認することが有効となります。従来から新篠津村内の各事業所様を中心としまして「現場実習」を受け入れていただき、生徒の勤労観・職業観の育成に大いに成果があるところです。さらに、普通教科の学習においても、各施設並びに人材の利活用をより一層推進して、より地域でのリアルな学習活動を展開したいと考えております。

結びになりますが、本校の生徒の学びは人と人とのかかわりによって、その質が高まっていきます。本年度も、社会に開かれた教育課程の改善を实践するため、生徒のよき支援者として、御家庭、地域の皆様と学校が連携を図りますので、本校教育への御理解と御協力の程をお願いいたします。



第33回生の入学式

4月9日（水）、春らしいおだやかな天気の中、33回生の入学式が執り行われました。

体育館への入場前には緊張感の最高潮のかたい表情でしたが、真新しい制服に身を包み、堂々と入場することができました。37名全員が入学許可の呼名にもしっかりと返事をして、本校の生徒としてのスタートを切ることができました。

新入生の皆さん、自分をしっかりと見つめて自分のことを知り、できるだけ早く3年後の夢に向かって努力を始めましょう。今年のテーマは、『ココロザス』です。

新入生の保護者のみなさま、これから本校卒業の日まで、一緒にお子様の成長を共に見守っていきましょう。御協力と御支援をよろしくお願いいたします。

1 学年主任



図書室より



本を読むことによって、スマホやiPadよりも深く詳しい情報を知ることができます。本からのたくさんの言葉に触れることで自分の伝えたいことをわかりやすく相手に伝えたり、自分で書きたいことを書く力を養うことができます。いろいろな興味深い本をたくさん取りそろえています。ぜひ御利用ください！



《編集後記》

春の訪れとともに、今年度も新しい仲間がたくさん新條津にやってきました。職員一同誠心誠意教育活動に取り組んで参りたいと思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。